

会報

No. 33 (第 1724 回) 2026 年 5 月 27 日 (水) 18:30~

第 2820 地区 瀬戸隆海ガバナー 地区行動指針

「時は今 ところ足元 そのことに 打ち込む命 永久の御命」

2025-2026 猪股真純会長 年度スローガン 「踏み出そう! 夢に向かって」

本日のプログラム : 次期クラブ協議会(1) 地区協議会報告

5 月 20 日 例会報告(第 1723 回)

◆ 幹事報告

報告者: 藤田 明英副幹事

ガバナーエレクト事務所から「青少年交換 長期・短期アウトバンド募集」のお知らせが届きました。(5/15 付事務局 小田島さんより)メールで転送配信されていますので、ご確認下さい。



◆ 出席報告

報告者: 出席委員会 中村 修生委員長

2026年5月20日 例会

会員数	出席免除者数	対象会員数	出席者	欠席者	出席率 (%)
34	2 内出席 0名	32	12	20	37.5

出席免除者(敬称略): 下線は例会 出席
高橋 昭、瀬谷利雄

厚見 和則	小林センター長様、卓話を楽しみにしています。よろしくお願い致します
猪股 真純	J-PARC センター長 小林隆様、本日はお越しいただき有難うございます。卓話よろしく お願いいたします。
海野 宏幸	J パークセンター長 小林様、卓話宜しくお祈いします。難しいテーマかと思いますが、 心してお聞きます。
浦澤 精乗	J-PARC センター長 小林様、卓話を有難うございます。楽しみにしています。
藤田 明英	小林センター長様、本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。 どうぞ宜しくお祈い致します。

◆ 外部卓話「J-PARC ～加速器で探る物質と宇宙～」

J-PARC 小林 隆センター長

J-PARC 小林 隆センター長をお招きして、「J-PARC
～加速器で探る物質と宇宙～」をテーマに講演いただきました。

原子の中の原子核も見るができる”凄い”技術と
施設としての J-PARC(東海村)についてご紹介いただき
ました。

その”凄い”技術とは、「陽子ビームを物質にあてて
いろいろな粒子を作って使う」というもので、ミュオン
ニュートリノ、K-中間子、反陽子、中性子(難しいですね)
が作られるもので、これらを用いて、身近なところでは、
リチウム電池、タイヤ、次世代メモリーの開発に使われ
ているということでした。

また、ご紹介いただいた話の中では、「小惑星リュウグウ
からのサンプルの成分分析」「ハイパーカミオカンデ実
験」など壮大な宇宙の起源に迫る研究を進められている
ことについて、その壮大さに感動した次第です。

J-PARC で物質、生命、宇宙の秘密を解明し、その
過程・成果で得た知見で、社会に貢献していくという壮大
な講演をいただき、大変有意義な卓話となりました。
ありがとうございました。



◆ 次期クラブ協議会(1) 地区協議会報告

次期会長・幹事及び次期各委員会委員長がクラブリーダーシップ・ラーニングセミナー(日時:2026年4月25日(土)、場所:ダイヤモンドホール)に参加しましたので、参加報告致します。

会長・幹事

報告者:次期会長 大越 正彦

本会議・基調講演

全体の流れとして、9時よりホストクラブであるしもだて紫水ロータリークラブの進行により、笠倉ガバナーエレクトの点鐘を受け、本会議が開会となりました。その後、渡邊正巳実行委員長、高田昌明ホストクラブ会長の開会宣言、歓迎のこたばを拝聴。つづいて笠倉ガバナーエレクトから地区役員の紹介がありました。

それから瀬戸隆海ガバナーの挨拶、清野宏之(土浦南)ガバナーノミニの挨拶、そして池田ガバナー指名委員長よりガバナーノミニ・デジグネートのご紹介があり、金澤卓也(水戸西)氏が登壇、ご挨拶をいただきました。

笠倉ガバナーエレクトより、国際協議会の報告とともに、次年度 RI 会長メッセージを紹介

「持続可能なインパクトを生み出そう(CREATE LASTING IMPACT)」

2026-27 年度国際ロータリー オンラインカ・ハキーム・ババロラ会長

続いて地区ガバナースローガンの紹介

「エンジョイ ロータリー!!! そしてスマートに……」

今こそ原点に立ち返り、「楽しさ」「仲間との時間」「人間味のあるロータリー」を取り戻したい。そして、自クラブをインパクトのある、強い魅力的なクラブに育てていきましょう。またスマートとは、「賢い」「手際が良い」「恰好良い」という意味もあります。知恵を出し合い、洗練された簡素化を進めながら、共に新しいロータリーの姿を築いていきましょう。

以降、大高司郎(高萩)地区ラーニングファシリテーターより趣旨説明、大久保(水戸)危機管理委員長より地区における危機管理について、高橋賢吾(水戸西)戦略計画委員長より地区における戦略計画についてご講和をいただきました。

基調講演は、第2580地区パストガバナーの嶋村文男(東京東江戸川)氏による「エンジョイロータリーを考えてみよう!」のテーマで講演をいただきました。

分科会

会長、幹事は第1グループで、分科会に参加、研修を受けました。

まず初めに地区会計長から地区予算案の説明があり各クラブ会長の承認を行う。

以降、加部東孝浩(大洗)第二分区ガバナー補佐を中心に第二分区会長幹事が集合し会合。

・年間予定の確認⇒東海那珂 RC の公式訪問は 10 月 28 日(水)。

但し今年度は、公式訪問 2 週間以上前にガバナー補佐をメインにクラブ協議会を開催し、その時点でクラブ現況報告を発表。ガバナー公式訪問時は1時間程度のクラブ座談会を主とした公式訪問となります。

- ・現況報告書内容として、クラブ戦略計画(3 years target)を記載する。
- ・また、クラブ定款及び細則の見直しを行い、見直した日付を記載する。
- ・地区公式名簿はオンラインの提供とします。地区名簿を現業報告書への記載はしないこと。
- ・My Rotary の登録及びロータリークラブセントラルへの入力確認
- ・RI 及び地区ガバナー事務所への各種報告の説明
- ・次年度地区大会までに、各クラブ会員1名増のお願い
- ・8～9月にかけて、各クラブに於いてオープン例会の企画、開催をして下さい。
 - * 2820 地区初めての試みとなるが、那珂湊 RC と大洗 RC が合併し、那珂湊大洗 RC として再出発。

以上、分科会を終え本会議場へ、
清野宏之(土浦南)ガバナーノミニーの講評を受け、笠倉ガバナーエレクトによる点鐘。
閉会しました。

以上

会員増強委員会

報告者: 次期会員増強委員長 高橋 琢

1. 全大会

(1) 会員基盤強化と会員増強について

- ・各クラブで純増2名以上を目指すこと
- ・女性会員比率向上
- ・新クラブ設立(衛星クラブなど)
- ・若い世代へのアプローチ強化
- ・オープン例会の開催

2. 会員増強委員会 分科会

「仲間づくり」をテーマに、会員増強の考え方や具体的な実践方法について学びました。

(1) 会員増強はクラブ全体の課題

- ・会員増強に「マジック」はない
- ・会員一人ひとりの協力が必要
- ・一部の会員任せにしない
- ・クラブ全体で計画的に取り組む

(2) 入会理由を理解する重要性

- ・奉仕活動への関心
- ・親睦・交流
- ・自己研鑽
- ・人脈形成
- ・リーダーシップ向上
- ・家族や知人の影響

(3)「数は力」という考え方

「質は大切。しかし、数がなければ質も生まれない」

- 多様な人材が集まる
- 新しいアイデアが生まれる
- 奉仕活動の幅が広がる
- クラブ運営が安定する

(4)魅力あるクラブづくり

- 楽しい例会
- 楽しい事業
- 楽しい親睦

(5)具体的な会員増強の方法

分科会では、具体的な仲間づくりの方法として、

① 誰でもできる会員増強

- 知人への声掛け
- 例会見学への案内
- 活動紹介

② 戦略的オープン例会

通常例会は内部向け要素が強い一方、オープン例会では、

- 初参加者が入りやすい雰囲気づくり
- 「アウェー感」を減らす工夫
- 外部ゲストとの交流
- ロータリーの魅力体験

(6)成功の条件

会員増強成功の条件として、

- 人の魅力
- 組織の魅力
- 会員が楽しそうに活動していること
- クラブに活気があること
- 新しい人を受け入れる雰囲気があること

(7)DEIと元気なクラブづくり

分科会では、DEI(多様性・公平性・包摂性)の考え方についても紹介されました。

年齢・性別・職業・価値観の違いを受け入れ、多様な人が参加しやすいクラブづくりを行うことが、結果として会員増強やクラブ活性化につながるとの説明がありました。

(8)結論 ～会員増強と退会防止は両輪～

- 新しい仲間を増やすこと
- 入会後のフォローを行い退会を防ぐこと

は「両輪」であるとの説明がありました。入会して終わりではなく、

- 活動参加への配慮
- 人間関係づくり
- 継続的なフォロー

以上

クラブ組織委員会

報告者：次期クラブ組織委員長 目黒伸也

1. 本会議

- ・各クラブは純増2名以上を目指すこと
- ・女性会員の比率向上に務めること
- ・新クラブ設立(衛生クラブ等)を目指すこと
- ・若い世代へのアプローチ強化に務めること
- ・オープン例会の開催を行うこと
- ・基調講演「エンジョイロータリーを考えてみる」

① プログラム委員会

- ・活動の目的説明を行う
- ・オープン例会(8月・9月)の実施
- ・イニシエーションスピーチ新会員卓話を早期に行う

② ニコニコBOX委員会

- ・活動の目的説明を行う
- ・奉仕活動の充実のためニコニコへの呼びかけを行う

③ 出席委員会

- ・活動の目的説明を行う
- ・メイクアップの推進に務める

④ 親睦委員会

- ・活動の目的説明を行う
- ・会員同志の理解を深めるため移動例会の充実を図ること

2. 分科会

分科会においては会員増強委員会との合同開催のため会員増強(仲間づくり)をメインに行われた。

クラブ組織委員会としては

- ・親睦委員会を中心にクラブ内での相互理解に務める
- ・奉仕活動の幅を広げるためニコニコの推進に務める
- ・早い時期にオープン例会を開催する

大越年度においては上記3点に主眼をおき進めていく

以 上

職業奉仕委員会

報告者:次期職業奉仕委員長 浅川 清司

1. 職業奉仕の歴史と経緯
 - (1) 歴史的変遷
 - (2) 職業奉仕の現代意義と2026-2027年度会長メッセージとの関係
2. 基本方針
 - (1) 内なる変化と倫理の実践
 - (2) 職業人としての誇りと成長
 - (3) 持続可能なインパクトの創出
3. ガバナー方針を反映した重点目標
 - (1) 会員個人による職業奉仕の実践(内なる変化の意識)
 - (2) 持続可能な繁栄による「持続可能なインパクト」の両立
 - (3) 多様性を尊重した職業人としての誇りの醸成
 - (4) 会員相互による職業訪問例会の実践とフィードバック

以上

国際奉仕委員会

報告者:次期国際奉仕委員長 佐々木 良一

1. 委員会活動は、グローバル補助金プロジェクトの実施推進、「この指とまれ」事業の実施および周知、現地での奉仕活動の実践、ウクライナ支援活動を進める。
2. 特に、国際奉仕活動事業参加クラブの支援を通じて、参加クラブの増加を目指す。
また、「この指とまれ」事業の推進、財団グローバル補助金奨学生募集・選考の支援、友好地区(フィリピン、タイ、ネパール)とのパイプ役としての活動を推進。
3. 「この指とまれ」事業の2026-2027年度事業募集は、別途各クラブにも周知する。
今回は、案内にプレゼンテーション用紙への記載例も添付している。
7月25日(土)に行われる「奉仕プロジェクト研究会」にて提唱クラブのプレゼンテーションを行うが、各クラブにおけるプレゼンテーション用紙に記入。提出締切は6月30日(火)を厳守のこと。
4. 現地での奉仕活動の実例として、インドネシアでの農地改良学校改修事業等について紹介があった。
5. 申請に当たっては、地区委員会宛に相談すれば、申請手続きをお手伝い頂ける。

以上

社会奉仕委員会

報告者:次期社会奉仕委員長 大牟田 弘文

1. 地区委員会の役割(社会奉仕委員会)

- (1)クラブに成功事例やリソース、地元団体、地区委員会、奉仕関連の他のロータリークラブを紹介することで、クラブによる社会奉仕を援助し、クラブがロータリー地域社会共同体をスポンサーとして地元市民との関係を築けるよう支援する。
- (2)地元団体、地区委員会、奉仕に取り組む他のロータリーグループをクラブに紹介することで、クラブによる社会奉仕を援助する。
- (3)各自の才能や職業スキルを活かして奉仕プロジェクトを計画、実施するようクラブ会員に奨励することで、職業奉仕を推進する。
- (4)社会奉仕活動を実施し、成功事例を紹介するようクラブに奨励する。

2. ラーニング形式の研究会の開催

(1)ラーニング形式とは？

今までの「基調講演⇒事例発表」という、講演会方式から脱却し、研究会にご参加いただく皆さんの意見を取り纏めます。そして、それに基づき全員で協議・検討を行い、当地区での最適な方向性を一緒に導き出していきます。「答えありき」ではない、役立つ・実践的な研究会を実施いたします。

- (2)ロータリークラブ以外にも含めた幅広い各種団体を巻き込み、ロータリー地域社会共同体として地域、特に今後の地域を背負って立つ若者に役立つロータリー活動の支援となる研究会を実施します。

3. クラブに成功事例を紹介

- (1)主に地区補助金活動事業の中から、現在の社会的なニーズに合致した事業を抽出し、実施クラブから事例発表を行っていただく。発表の場として、ラーニングセミナー・研究会を実施する。
- (2)同じ2820地区の中でも、分区ごとに社会奉仕事業の特色があり、A分区では当たり前に行われている事業が、B分区では全く該当事業がない場合も多い。
- (3)新しい事業を発掘する。各地区の新しい事業を紹介してもらう。
- (4)ロータリークラブが中心となって、地域社会共同体を組織するような事業の構築を全力でバックアップする。
- (5)図書館等、若者が集まる場所への資料設置

以上

青少年奉仕委員会

報告者:次期青少年奉仕委員長 石井 秀明

1. 地区戦略計画
ポリオ根絶集会、公共イメージ向上等
2. 青少年奉仕委員会方針
インターアクト、青少年交換、RYLA を通じたリーダー育成、国際視点と地域貢献、危機管理徹底、ロータリアンの成長
3. 年度課題
相手国と関係維持、IAC 海外研修
4. 主な日程
7/19 青少年奉仕研究会 ホテルニューつたや
8/21 インターアクト年次大会 つたやホテル(下館工業ホスト)
11月 ライラセミナー(予定)
5. 青少年交換 募集/受入 : 留学期間8月から6月まで
6. 台湾研修 : 12月頃(予定)
7. 青少年交換留学 : アメリカ、タイ 今年度1名予定
8. ポリオ根絶 : 10/24 下館
9. 危機管理 : 安全確保(人命、人権、個人情報)
10. 青少年奉仕活動の周知 : ライラの周知と参加促進、IAC 新規促進

以上

ロータリー財団委員会

報告者:次期ロータリー財団委員長 島田 智和

1. ロータリー財団総括委員長 大野治夫
優先事項としてポリオを根絶し残された遺産を活用する。
2. 本年度の目標 : 年次寄付 150ドル/人 ポリオプラス基金 30ドル/人
3. ポリオプラスソサィティ(PPS)会員募集 ⇒ 現 PPS 会員 + クラブ 1名以上
4. ポールハリスソサイエティ(PHS)会員募集、地区100人以上維持
5. 地区補助金について
今後は大口 100万円~200万円規模の補助金申請にチャレンジしてほしい。
6. ロータリーカードについて
使用金額の0.3%が財団にポリオ寄付される。

以上

米山奨学会委員会

報告者:次期米山奨学会委員長 海野 宏幸

- ・ 岩田 総括委員長の進行で、米山記念奨学会の意義・目的等の説明、
奨学生へのオリエンテーリング、寄付、学友会等について説明がありました。
- ・ 佐谷選考委員長より選考の流れ、2026年度の奨学生・危機管理について説明
米山記念奨学会は日本のロータリー独自のもので、日本で学ぶ外国人奨学生に支給
世話クラブ・準世話クラブ・カウンセラーを置いている
- ・ 寄付担当の斎藤委員長より各クラブでの特別寄付への配慮の依頼
学友会関係では中国人の張朔源学友会委員長より卒業後の受け皿としての学友会の説明
がありました。
出会い・居場所・支え・つながり・恩送りについて米山学友は2.5万人を超え、学友会も国内
33, 海外に10の学友会がある。
学友による寄付も中国から91百万円、台湾から31百万円、他累計約132百万円
- ・ 2026度 奨学生
新規 23名 継続 12名の35名
女性 22名(新規 14, 継続 8) 男性13名(新規 9, 継続 4)

以上

次回例会 6月3日(水)12:30~

ネパール訪問報告:中村 澄夫パストガバナー、海野 宏幸パスト会長

例会を欠席する時は、必ず前日 12:00 までに事務局まで連絡のこと

【クラブ会報・公共イメージ委員会】

委員長 桐嶋健二/副委員長 石井秀明/委員 大牟田弘文 佐々木良一 原嶋俊彦